

県立大松江は 4学科に203人

松江市浜乃木7丁目の県立大学松江キャンパスで4日、二年制の短期大学の2学科と、新設された四年制の人間文化学部の2学科の計203人の入学式があり、それぞれ学生生活を通して成長していく決意を新たにしました。

新入生の内訳は、短期大学部が保育学科42人、総合文化学科44人、人間文化学部が保育教育学科43人、地域文化学科74人。入学式では人間文化学部保育教育学科の福岡楓さん(18)が「勉強に加え地域のボランティア活動などにも力を入れたい」と宣誓。短期大学部総合文化学科の佐藤白菜子さん(18)は「2年間で社会人に必要な力を身につけたい」と誓った。

清原正義学長は、祝辞で入学1年目が特に重要とし「自分自身で考え、表現する力を養ってほしい」と呼び掛けた。

(古和隆宏)

交通費など経費負担

県立大 学生の地域貢献支援

県立大（浜田市野原町）は12日、授業やゼミ活動で地域貢献に取り組む学生向けに、交通費やイベント経費の一部を負担する地域貢献推進対策事業費を新設したと発表した。本年度当初予算に1千万円を盛り込み、課題のある地域に学生が出掛けることを促す。

同日の記者会見で清原正義理事長兼学長が発表した。対象は松江、出雲を含めた全キャンパスの学生で、学長裁量経費として計上した。

同大は、地元企業へのア

ドバイスや中山間地域の集落支援といった地域貢献活動を授業の一環として実施している。県域が広いため、交通費や宿泊費の負担が大きく、遠隔地での活動が難しい問題があった。

同大によると、具体的な適用基準などは今後詰めるとしているが、対象地域は県内を中心に想定。旅費の支給で、より広域に地域貢献活動を広めたいとしている。

清原理事長は「学生は地域に出掛け、住民と交流して学んでほしい。県内全域

の自治体と連携したい」と話した。

（鎌田剛）

県立大、松江商、湖南中

地域の教育力向上へ連携

協定締結

県立大・同大短期大学部と松江商業高校、松江市立湖南中学校が25日、交流促進の連携協定を結んだ。県

立大・同大短期大学の教員が、松江商高や湖南中へ出前授業をしたり、中学生が大学・短大での模擬授業に参加したりする。

いずれも松江市橋南地区に立地し、徒歩や自転車で数分で移動できるメリックトを生かして連携を深め、地域の教育力を高めよう

と大学側が呼び掛けた。大学と高校、中学校の3者による連携協定は珍しいという。

中学校の教員が大学で研修を行う一方、教職課程を履修する学生の教育実習を中学校が受け入れる。学生による放課後学習の支援、部活動の指導も想定し、

学校行事やイベントの共同企画を通じて世代間交流を深める。大学側は今春新設した四年制の人間文化学部を中心に進める。

松江市浜乃木7丁目の県立大松江キャンパスで調印式があり、県立大の清原正義学長と松江商高の岡崎豊年校長、湖南中の原俊行校長が協定を交わした。清原学長は一連携を強化し、一つの学園地域として発展につなげたい」と話した。

(森山郷雄)



協定を締結し、握手する(左から)岡崎豊年校長、清原正義学長、原俊行校長